

私の考えるスポ健の 博士力

いかなる場面にも
おいても慌てず、
客観的に判断する思考力



石に齧りついてもやり遂げるもの。 そこから得られるものは計り知れない。

白鳳短期大学 専攻科 リハビリテーション学専攻 言語聴覚学課程 准教授

小畠 麻木

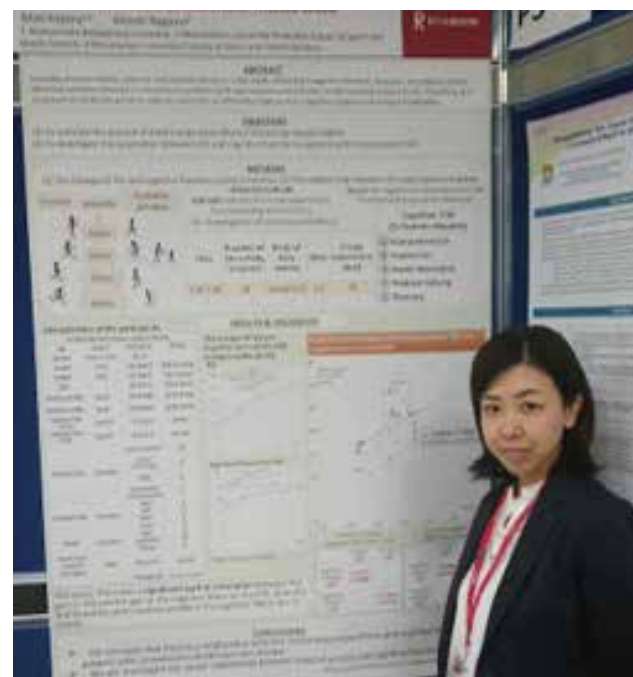


let's access



この QR コードを読み取ると
博士学位論文に
アクセスできます

学位授与の年月	2019 年 3 月
学位論文のタイトル	The Association between Physical Activity and Cognitive Function in Patients with Brain Damage
指導教員名	長野 明紀
研究領域	脳機能・リハビリテーション学領域
キーワード	認知機能・身体活動・リハビリテーション



学位取得を 目指した きっかけ

修 士課程を取得した後は、再び病院での臨床に従事する日々でした。しかし、当時からチームで実施していた研究は、頻度は少なくなっても定期的に集まって会議をし、進めている状況でした。研究はこの先も継続することを決意し、そうであるならば、学位取得は必須であると思い、博士課程へ進学することにしました。

在学中

言 語聴覚士として病院勤務しつつスポーツ健康科学研究科において先生方の教育および研究指導を受けました。毎週定期的に行われるミーティングにできるだけ参加し、研究の進捗を報告し、ゼミでの多くのフィードバックとしてのアドバイスを頂くことで、自身の研究が進みました。並行して、研究費の獲得を始めとした研究者としての教育を受けました。在学中に民間の研究費を獲得することができました。国内誌、また国際誌への投稿、国際学会での発表も行いました。先生方の入念な個別指導のお陰で、自身の足りなさを細かく指摘して頂き、自己を省みて成長することができました。大学院に通学していなければ、このようなことはできなかったと痛感しています。

現在

本 年度より言語聴覚士養成校としての短期大学へ赴任しました。国内で唯一の1年課程での言語聴覚士養成校であり、過密な授業スケジュールとなっておりますが、学生達の意欲に応えられるよう、指導をしています。多くの学生は、理学療法士、作業療法士、看護師をすでに取得した後のダブルライセンス取得の為に受講しています。意欲が高く、高いレベルの授業指導を求められています。国家試験の合格は必須であり、この春からすでに個別の学習状況を確認しながら進めています。1年後には臨床現場で働ける人材となるよう、人間教育も欠かせません。

将来像

教 育をしつつ、新しい研究に着手して、スポーツ健康科学研究科在学中のように、国際誌に投稿すること、国際的な研究を知り、発表できるようにしたいと思います。

スポ健では、先生から、友人から多くを学べます